



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

12 月号は休刊

次号 2019 年 12 月号の『カトリック教報』は休刊します。そして、2020 年 1 月号との合併号の形で教皇訪日特集号として発行されます。

来日テーマ『すべてのいのちを守るため』

平和のメッセージたずさえ 教皇、爆心地と西坂も訪問予定



「11 月に日本に行くでしょう、心の準備をしてください」

今年 1 月 23 日パナマに向かう特別機の中で



ローマ教皇庁・バチカンでは、10 月 2 日 (水) 10 時 (日本時間同日 17 時) にタイと日本訪問の詳細日程を発表した。教皇は 11 月 20 日から 23 日までタイ王国を、11 月 23 日から 26 日まで日本を訪れる。長崎にはミサ会場の他、爆心地 (原爆落下中心地) 公園と西坂公園も訪問予定で、どのようなメッセージが発表されるか注目される。「すべてのいのちを守るため」に求められる教皇をお迎えする「心の準備」が、各々、共同体全体で整えられていくことを願う。

日本での主な日程

2019 年 11 月 23 日 (土)

バンコクー東京

9 時 30 分 航空機で東京へ

17 時 40 分 東京国際空港 (羽田空港) 到着。空港で歓迎式。

ローマ教皇庁大使館で司教との集い。教皇の講話。

11 月 24 日 (日)

東京ー長崎ー広島ー東京

7 時 00 分 航空機で長崎へ

9 時 20 分 長崎空港到着。長崎爆心地公園で核兵器に関するメッセージ。西坂公園・殉

教の記念碑で日本二十六聖人殉教者への表敬。教皇の挨拶。お告げの祈り。長崎大司教館で昼食。長崎県営野球場 (ビッグ N スタジアム) でミサ。教皇の説教。

16 時 35 分 航空機で広島へ

17 時 45 分 広島空港到着。広島平和記念公園で平和のための集い。教皇のメッセージ。

20 時 25 分 航空機で東京へ

22 時 10 分 羽田空港到着

11 月 25 日 (月)

東京

ベルサール半蔵門で東日

本震災被災者との集い。教皇の講話。皇居で天皇陛下との御会見。東京カテドラル聖マリア大聖堂で青年との集い。教皇の講話。ローマ教皇庁大使館で教皇随行団と共に昼食。東京ドームでミサ。教皇の説教。官邸で首相との会談。官邸で要人および外交団等との集い。教皇の講話。

11 月 26 日 (火)

東京ーローマ

上智大学クルトゥールハイムのチャペルでイエズス会員とのプ

ライベートナミサ。イエズス会 SJ ハウスで朝食。会員と共に SJ ハウスで病氣・高齢の司祭を訪問。上智大学への訪問。教皇の講話。東京国際空港 (羽田空港) で別れの式。

11 時 35 分 航空機でローマ (フィウミチーノ空港) へ

17 時 15 分 ローマ到着

教皇訪日長崎実行委員会から

長崎での教皇ミサについて

実行委員長 中村 満

教皇フランシスコは、11 月 24 日 (日) 王であるキリストの祭日に長崎を訪ねてくださる。「訪日教皇ミサ in 長崎」は、当日午後 2 時から長崎県営野球場を会場にし、約 3 万 5 千人の参加者を得て開催する予定である。教皇様は、バチカン市国の元首でもあられるので厳重な警備、警護が必要で、県営野球場周囲は立ち入り禁止区域が設けられる。

会場への入場にあたっては、県警察の指導もあり、入場者は入場証を提示し全員がセキュリティチェックを受けなければならぬ。そのため、午前 9 時から受付とセキュリティチェックを開始し、入場者を迎え入れるように計画している。受付とセキュリティチェックは、午後 1 時をもって終了する。

会場内は、ブロック制の座席配置にし、迷子にならないためにもグループごとに着席できるようにしている。教皇様の到着までには待機時間が長時間になると思われるため、水分補給などを怠らず、くれぐれも体調管理に努めてほしい。教皇様は午後 1 時 30 分に県営野球場に到着し、最初にフィールド内に入られ、会場の周りを周回される。その後、香部屋に移動され準備を済ませ、午後 2 時から「訪日教皇ミサ in 長崎」を始められる。

ミサは多言語で行われる予定だが、式次第の小冊子が配布されるので、冊子を活用しミサ中の応答は父なる神と教皇様への感謝も込めて大声で応答してほしい。聖体拝領は、司祭団によって行われるが、混雑、混乱を防ぐため誘導係、整理係を配置し、拝領場所の目印として赤色の傘を準備している。係の指示に従って順次拝領してほしい。ただし、教皇ミサは 90 分

終わるように指示があり、現在の参加申し込みの状況では聖体拝領に要する時間が不足すると思われる。全員が拝領を済ませることはできないのではないかと危惧している。その場合には、教皇ミサ終了後に拝領の時間を取るように予定している。

教皇様はミサ終了後、直ちに長崎空港に向かわれ、広島に向けて発たれる。ミサ会場からの退出は、混雑を避けるためフィールド席、内外野席共にブロックごとの退出を計画している。場内の電光掲示板や場内放送を用いながら誘導するようにしているの、係員の指示に従い事故のないように退場してほしい。

参加にあたっての注意事項

■野球場周辺からの会場への入口は、松山交差点側に配置します。大橋交差点側の野球場玄関口は立ち入り禁止区域となり入場できません。松山交差点と松山競技場 (市営ラグビー・サッカー場) を目安に移動してください。

■入場には「入場証」が必ず必要です。入場証がない場合は入場できません。

■金属探知機によるセキュリティチェックは全員必ず必要です。不要なものを持ち込まないようにしましょう。

■入退場は長時間となるため栄養分と水分補給が必要です。各自必要に応じて準備しましょう。

■場内図を参照し、入退場口、トイレなどを確認しておきましょう。

■場内では雨天時でも傘は使用できません。雨具を用意しましょう。

「訪日教皇ミサ in 長崎」へのご来場を心からお待ちしております。



ミサ会場となるビッグ N スタジアム。電光掲示板側に祭壇が設けられる。
(写真提供=長崎県営野球場)

★ほしかげ★

7 月 29 日、召命フェスティバルが雲仙で行われ、召命祈願ミサ、寸劇、ライブ演奏、レクリエーションなどが行われ、子どもたちと楽しく参加することができた。▲今年は教皇様が来日されるとあって、会場には教皇様や司教様方、身近な主任司祭の似顔絵が数多く展示してあった。個性的な作品や力作が多数出そろった中、共通していたのは笑顔で優しい表情の牧者の姿だった。それぞれに味わいがあり、子どもたちの感性の豊かさを見ることができた。▲個人的印象に残ったのは、神学生の寸劇でローマ司教がパパーと親しみを込めて呼ばれる理由の説明だった。5 世紀、異民族が二度にわたってローマに侵入してきた時、レオ 1 世は、ほぼ単身丸腰で異民族の王を平和的に説得し、人々の命と財産を守った。弱者を助け、正統信仰を力強く擁護することによって牧者キリストの姿を示したのである。▲いつの時代も平和の実現は困難や試練を伴う。教皇様は「平和は、暴力という岩だらけの土地で、なんとか咲こうとしている繊細な花に似ている」と表現しているが、私たちの先祖は、辛く厳しい迫害のさなか「沖に見えるのはパパーの船よ。丸にヤの字の帆が見える」と口ずさみながらパパー様を心の支えとし、希望を失わなかった。▲死者の月にあたり、聖徒の交わりの中で、平和の使徒として日本に來られる教皇フランシスコを喜び迎えよう。
(汐)

「訪日教皇ミサ in 長崎」会場ビッグNスタジアム 座席配置図

2019年11月24日（日）

午後1時30分～3時30分

※ミサは2時から

長崎県営野球場（ビッグNスタジアム）

当日の問い合わせ・連絡先

教皇訪日長崎実行委員会事務局（実施本部）

電話 095-846-5366

救護本部

電話 095-846-5377

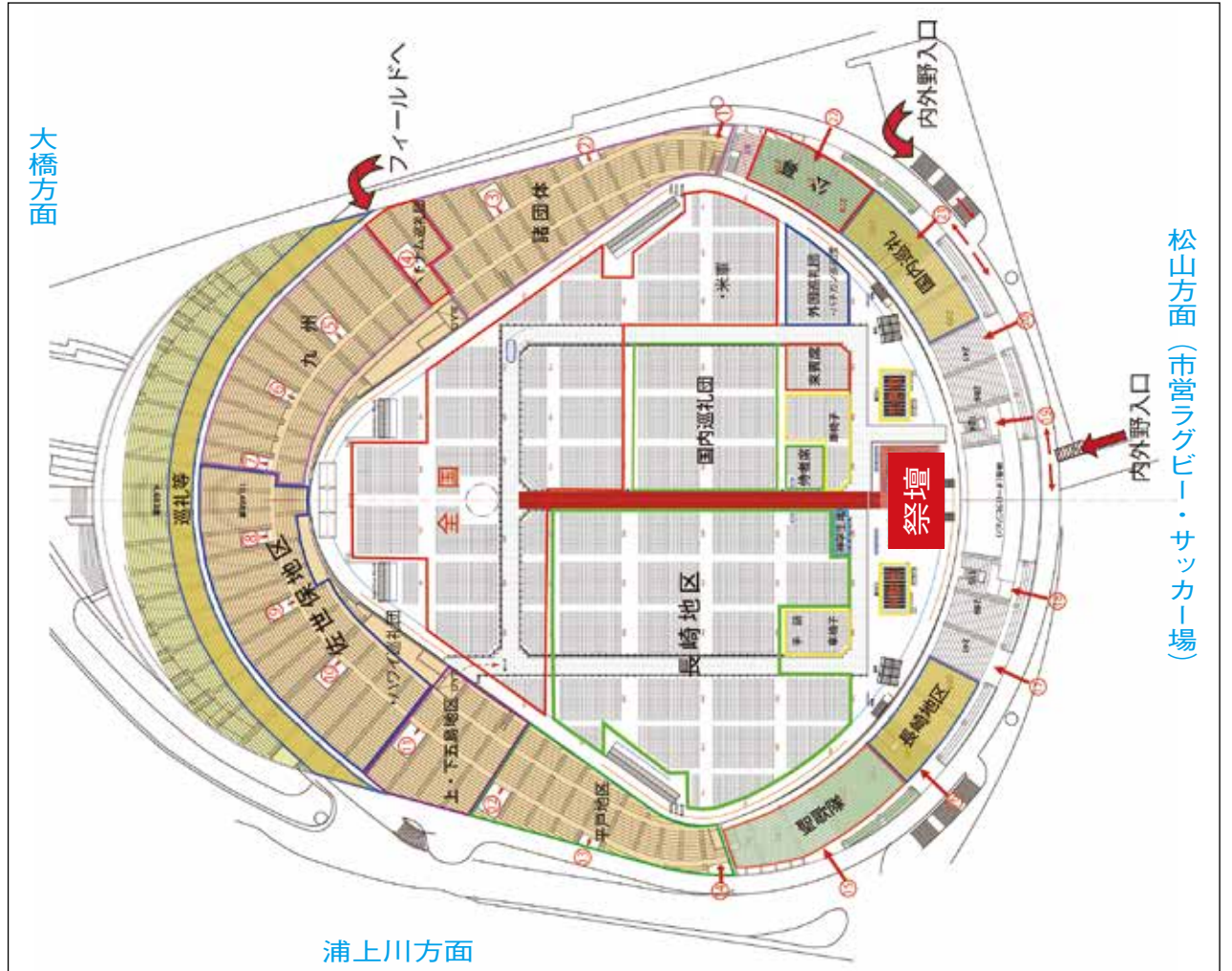
インターネット配信予定

特設サイトから視聴できるよう計画中

<https://popeinjapan2019.jp>

その他の注意

- ・当日はカトリックセンターおよび長崎大司教館の駐車場は利用できません。
- ・ミサ中の撮影はできません。
- ・入場の際、身分証明書が必要になる場合があります。詳しくは、入場証と一緒に送付した注意事項をよく読んで、ご準備ください。



教皇訪日長崎実行委員会 各部から協力願いと呼び掛け

実行委員会事務局

「訪日教皇ミサ in 長崎」への参加申し込みにご協力いただきありがとうございます。入場証は10月末から送付を開始します。各自大切に保管し、当日は必ず持参してください。受付では入場証の確認が行われます。受付後、金属探知機によるセキュリティチェックが行われます。最高レベルのセキュリティが要求されていますので、不要なものには会場に持ち込まないでください。会場内には各所に各係員を配置していますので、その指示に従ってください。



対応に追われる事務局のスタッフ

救護部は当日、医師、看護士、ボランティア、総数約300人の協力を得て対応します。医療チームを構成し、実際に救護・治療を行う本部を1階1層側屋内練習場に3チーム、支部を2階第一会議室に2チーム設置予定です。ミサ会場のフィールドに19チーム、スタンドに20チーム、爆心地公園、西坂公園にも各1チーム配置します。また、長崎大学病院と久留米聖マリア病院の

典礼部

雪の松山陸上競技場のミサから38年、パパ様のミサが近づいてきました。11月24日（日）、長崎市の県営野球場を会場に行われるミサの準備が進められています。会衆席はおよそ3万5千人、約2千人のボランティアが進行をサポートします。また、パパ様は世界に影響を与えるリーダーの一人でもありますから、行政や警察の指導や協力もいただいています。

ミサ会場にお着きになると、パパ様は場内を専用の自動車でゆっくり一周して会場の皆さんにあいさつしてください。歓迎と感謝と親しみ

救護部

会場内に長時間とどまることになり、体調管理には十分気を付けていただきたいと思います。医師、看護師、ボランティアからなる救護班を各所に配置していま

す。入場時に救護班の位置を確認してください。体調がすぐれない時は、すぐに救護班にご連絡ください。季節柄、気温は当日の天候に左右されますので、衣類には十分注意してください。会場内には教皇ミサ実施本部を置きます。何かの時には本部にご連絡ください。皆様方のご協力を得て、恵み多き時を持つことができますように願っています。

案内・誘導部

今回の教皇ミサでは、厳重なセキュリティ対策が県警察から求められ、金属探知機によるセキュリティチェックが義務付けられています。そのため受付とセキュリティチェックを4時間前から実施することになりました。入場のためには相当の時間が必要と考えられるため、早めに、しかも時間に十分余裕をもつて来場してください。



事務局から各部への説明会（10月8日大司教館）

救急チームの応援も頂いて、参加される皆様の健康面の不具合に、適切、迅速に対応できるよう準備を進めています。参加者の皆様は次の点にご留意ください。①保険証、お薬手帳を持参してください。②日頃服用している薬は忘れずに持参し、必ず服用してください。③かかとが低い靴、履き慣れた靴で参加し、日頃使用している杖を持参してください。

からご安心ください。ラテン語だけで進められる部分は、代表者の声に心を合わせておこなってください。他にも朗読や共同祈願でさまざまな言葉が用いられます。これはパパ様が世界の牧者であるしるしです。パパ様のミサが、わたしたち教会に新しい力を与え、後になって「あのとき」の恵みとして振り返る機会となるよう願っています。ながら、ふさわしい準備を続けたいものです。

広報部

広報部は教区広報委員会を中心に構成されています。カトリック中央協議会の指導のもと、これまで「教皇訪日」や「訪問日程」の公式発表を、紙（カトリック教報）とインターネット（ホームページなど）の媒体を通してお伝えし、教皇訪日長崎実行委員会のメッセージを公開してきました。11月24日教皇来崎時は、パチカンからの随

記者団の他に相当数の国内外メディアが取材することが見込まれ、報道対応の専門家の指示を受けながら対処していきます。「カトリック教報」は月1回の発行のため、来崎に関する事前情報をお伝えするのは本号が最後ですが、長崎大司教区ホームページなどは随時更新されますので、注意して見てくださるようお願いいたします。

宣教のための特別月間を過ごす ⑩

現代日本教会における宣教の諸問題

韓国殉教福者聖職修道会
奈留小教区主任 ダニエル 金 桐旭

「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」(マタイ 28 章 19・20 節)という主の莊嚴な命令は時代を超えて現代に生きるわたしたちに向けられている。いわゆる「福音宣教」の義務はキリストに従うすべての人に与えられ、歴史の中で多くの人によって果たされてきたのである。1549 年のフランシスコ・ザビエルの来日より、カトリック教会は日本の歴史の中で発展と衰退を重ねて根付いてきたが、現代においては次第に衰退する模様である。非常に深刻な問題であるが、これという代案がないのも確かである。ここではいきなりの解決策を提案するよりは、皆が「宣教は大事」と思うものの、どうしてうまくいかないのかという問題について、いくつかの理由を第三者の観点から指摘してみることにする。

宣教と福音化

誰の人生にも全盛期があり、衰退期もある。全盛期の華やかな頃を忘れられないのは当然であるが、それにとどまらずその時のようにまた盛んになりたいと思うことは時代錯誤的な発想である。自分の全盛期から離れて新しい自分の人生を受け入れ、未知の、不慣れな先へ進もうとしなければ淘汰されるに違いない。

教会も一緒である。教会の歴史の中で宣教の全盛期というと、16 世紀前後にわたる「大航海時代」である。日本にカトリック教会が伝わったのもその時期で、スペインやポルトガル、そしていくつかの大きな修道会によって全世界にカトリック教会が広がる時期であった。ところが、植民地支配や占領の名目で宣教活

動が行われたという反省の上、1622 年にローマ教皇庁の組織である「布教聖省」が開設される。日本語では「布教」と訳されているが、ラテン語の正式名称は「Sacra Congregatio de Propaganda Fide」、すなわち信仰が伝わっていないところに教会を設立することに携わっていたのである。それが第 2 バチカン公会議の神学に基づき、今の「福音宣教省」となったが、ここで宣教の解釈が大きく変化される。「福音宣教省」のラテン語の名称は「Congregatio pro Gentium Evangelizatione」、直訳すると「民の福音化のための省」である。以前の宣教は「教える」「未信者に洗礼を授ける」という意味であったが、以降の宣教はいわゆる「福音化」に変わったのである。すなわち、「福音的に福音を伝えなければならぬ」という論理である。以前の宣教のパラダイムにおける目的は強引にでも「洗礼を授けること」であったが、現代においては「誰が誰を教えるだろうか」ということで、人々に対して真理を教える宗教の機能を喪失しつつ、「洗礼を受けなくても福音的に生きればよい」という福音化の誤解の上、洗礼の拒否に対して緩めになり、目的を忘れた無力状態に落ちていくかのように思われる。教会の現実的な問題は「信者数減少」であり、その直接的な解決策は「洗礼」による信者数増加である。宣教も福音化も本質は同じであり、その目的も変わっていないことを忘れず、それに至る道や方法を工夫すべきである。

宣教と経済

2015 年 12 月、アメリカの調査機関「ピュー・リサーチセンター」(Pew Research Center)は GDP (国内総生産)

と宗教との相關関係についての調査を発表した。それ以前にも似た調査はあったが、要するに、貧しい国は宗教的な傾向があり、富んでいる国はそうではないということ、国民一人当たりの GDP がおよそ 3 万ドルになる国では人々が宗教を大事にしないという結果である。1970 年から 80 年代まで大幅に成長した韓国のカトリック教会も GDP が 3 万ドルを超えている今は信者数・召命の減少問題が現れている。

そのような現象は既にヨーロッパで現れて、教会はなくなり、若者たちは教会を離れ、召命は減少するなど、大きな問題となったことがあるが、その問題がアジアで GDP 3 万ドル以上の国である韓国と日本のカトリック教会にも現れているのである。それは、個人主義と資本主義のもとで、就職や結婚、子育て、教育、健康など人の人生の問題はほとんどお金の問題に帰結され、人間関係も物質的に変わる。同時に、神との関係も「ギブアンドテイク」の関係で考えるようになっていく。人生の目的は「自分の幸せ」「自己満足」となり、それに邪魔になるのはたとえ神であつても要らないというのである。

この全世界的な現象について「宗教と資本の戦いにおいて、ほとんどは資本が勝つ」という分析もある。現代の人々は貧しい人の人生には関心がなく、お金持ちの人生やライフスタイルに関心があり、憧れている。そのような人々に貧しい教会が貧しさについて話しても心が動かないのは当然なので、教会も力を得るために資本主義のシステムに入り、自ら世俗化することを妥協しているのではな

て、富を憧れる人々の心に響かせるほどに真理を消化した精神(カリスマ)の不在にあるのではないかと思う。

宣教と殉教

宣教は「派遣する」というラテン語の動詞「mittere」から派生した「missio」の訳語で、言葉通りに何かの命令を受けて派遣され、その地で命令を達成することを意味するので、同じ意味の英語「mission」には「宣教」の意味以外に「任務」という意味もある。言葉の意味から考えると、宣教の核心は自分の慣れた場所から離れて新しい所に遣わされること、すなわち不慣れなこと、不慣れな人との出会いにあるのが分かる。しかし、それはある意味で危険なことである。新しいこととの出会いには必ず衝突が伴うからである。歴史の中で教会のないところにあつて、宣教がスムーズにできた所は、一カ所もない。イエス・キリストの教えは真理とはいえ、それに対して反発があり、迫害もあった。それはイエス・キリストの時代にもあり、使徒たちもあちらこちらで迫害を受け、殺された。教会のないところに教会が建てられる初期に、なんと多くの人々の血が流されたのかは言うまでもない。教父テルトゥリアヌスはそれについて「殉教者の血は教会の種」と言ったことがある。幼児洗礼であるが、成人洗礼であろうが、自分の意志で信仰を受け入れようとするときには、自分の中でも必ずそのような戦いが起こる。昔はそのような戦いは裏切りのように見なして許されなかったが、現代においてそのような衝突や戦いはより深化されている。そのような衝突や戦いによる葛藤状態は、特に日本人にとって苦手なことなので、ほとんどが避けるか目をそらしてしまふ。そのような態度を持っていた信者は「なぜ神を信じなければならぬのか」という根本的な質問を投げている人々の前で、自分の信仰についても話せなくなる。自分としてはあまりそのような目に遭いたくないと思ひ、これまでと同じように最小限の信仰の義務だけを守りながら、安全で慣れた自分だけの信仰生活に隠れる。このような臆病がある限り、真の意味の宣教は期待できないかもしれない。

わたしたちが先祖と呼んでいる多くの殉教者たちは、人々の前で、自分を殺そうとする人々の前でも喜んで堂々と自分の信仰について語った。それができたのは神の恵みによってである。現代日本社会の中にも迫害はある。教会が、そしてその構成員一人ひとりが神の恵みを信じ、その迫害にそして自分の信仰態度にも立ち向かう勇気を出す時が来たのである。

教皇フランシスコのよろこび —キリストをあかしする日々—

阿部師を迎え 公開信仰養成講座

教区生涯養成委員会は 9 月 16 日(月) 10 時に、2019 年度公開信仰養成講座をカトリックセンターホールで開催し、約 150 人の司祭・修道者・信徒が受講した。当日は中村倫明新司教の叙階式と重なり、開始時間を予定よりも早め、時間を短縮する形で開催となった。

今回は、教皇フランシスコの来日に向けての準備勉強会として企画し、神学博士でサレジオ修道会司祭の阿部仲麻呂師を講師に迎え、「教皇フランシスコのよろこび——キリストをあかしする日々——」というテーマで話をしていたのだ。

阿部師はまず、教皇フランシスコが青年時代に体験した三つの出会いについて紹介した。一つ目は 16 歳の時、主任司祭からゆるしの秘跡や霊的指導を受け、そのことがきっかけで司祭を目指すようになったこと。二つ目は 21 歳の時、肺の病気で入院していた時に、お見舞いに来たシスターから「キリストの苦しみを思い出しなさい」という言葉を受けたこと。三つ目は 23 歳の時、イエズス会の上長に将来は日本で宣教したいという希望を伝えるも、健康上の理由から却下されたこと。教皇のこれらの出会いは苦しく、自分の意にそぐわないものでもあったが、その中から喜びを見いだし、自分の進むべき道



阿部師自身も 12 歳の時に、教皇ヨハネ・パウロ 2 世の来日のニュースが、洗礼を受けるきっかけになったことに触れ、「ある相手との人格的な出会いが、私たちに喜びをもたらし、私たちをキリスト者にし、信仰を目覚めさせます。それは倫理や難しい理論を習得することよりも重要なことです。教皇は、信仰とは喜びのことであると教えています。私たちはその喜びを受け継ぎ、伝えていく使命があるのです」と述べた。

また、教皇のいくつかの文章を紹介し、回勅「ラウダート・シ」には、「地球は一つの家であり、目の前に苦しんでいる人を自分の家族の一人としてみることの大切さ」が書かれていることや、使徒的勸告「喜びに喜べ」には、「わたしたちが聖人になるために」必要な要素として、忍耐、柔和、ユーモア、勇氣、熱意、連帯、祈りが挙げられていることなどを紹介した。

講座に参加した一人は「教皇様の素朴で優しいお人柄を感じることで、できる、分かりやすいお話でした。阿部神父様の話し方にも癒やされました。もっと聞きたかったです」と語ってく

生涯養成委員長 谷脇誠一郎

教皇フランシスコの公文書

- 回勅「信仰の光」
- 回勅「ラウダート・シ」
- 使徒的勸告「福音の喜び」
- 使徒的勸告「愛のよろこび」
- 使徒的勸告「喜びに喜べ」
- 使徒的勸告「現代世界における聖性」

*「回勅」は「教皇が信者の信仰生活を指導することなどを目的に、通常は全カトリック教会にあてて送る書簡。重要度の高い教書」で、「使徒的勸告」は「教皇が聖職者、修道者、司教などに向けて、霊的生活のある面で進歩するよう勇気づけるために送る勸告」(カトリック中央協議会ホームページ)。「その他」に「自発教令」「大勅書」「使徒的書簡」などがある。

誕生 司教 明倫 中村 ペトロ

キリストのように キリストとともに 与えること

喜びに満たされた叙階式と祝賀会

9月16日(月)午後1時から浦上司教座聖堂で司教叙階式が行われ、長崎大司教区補佐司教、ペトロ中村倫明司教が誕生した。

ミサの主司式は高見三明大司教(長崎教区)が、共同聖別司教は前田万葉枢機卿(大阪教区)と浜口末男司教(大分教区)を務めた。また、駐日ローマ教皇庁大使ジョセフ・チェノット大司教と参事官ヴェンチエスラブ・トゥミル神父、日本の9教区(札幌、仙



台、さいたま、大阪、名古屋、広島、福岡、大分、那覇)から司教や使徒座管理区長、韓国・テグ教区のチャン・シンホ補佐司教も参列。130人を超える司教団を含め、修道者、信徒ら合わせて約2000人が集まった。開祭の後、ことばの典礼に続いて叙階の儀が行われ、駐日教皇大使によって司教任命書が朗読、任命書は司教の手により掲示された。説教では、高見大司教が司教職についても触れ、次のように語った。

「長崎大司教区の補佐司教に定められた中村倫明神父様、あなたは主ご自身によって人々の

このたびの叙階式では大変お世話になりました。それに、たくさんのお祈りやお祝いのお言葉やお品、過分なお志までありがとうございました。これから歩みにおいて、大いなる励まし支えになっていきます。本来ならば、お一人お一人のもとを訪ねし、お礼を申し上げなければならぬのに、それができないことをおゆるしくください。

よく尋ねられます。『どのような教区にしたいですか?』司教様の指針は何ですか?『このように教区にしたい。わたしがそう思っている司教に候補して司教になったのではありません。それに、補佐でありますので高見大司教様の意向に基づき、そして、教区の皆様方のお言葉に耳を傾けながら、これからの大

中から召され、さらに司教団の中から選ばれて、神の救いの働き手として人々に奉仕するために立てられたということを常に心に留めてください。司教職は決して名誉職ではなく、何よりも奉仕職です。主が、『あなたがたの中で偉くなりたいたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。』(マルコ10・43・44)と教えておられる通りです。神の民、神の家族を守り導くよう選ばれた者として、いつも、よい牧者キリストに倣うように心がけてください。フランシスコ教皇様が言われたように、『羊のにおいのする牧者になってください。』何よりも牧者キリストは、『自分の羊のためにすすんで自分のいのちを捨ててください。』

御父があなたに委ねるすべての人を、父親あるいは兄弟として愛してください。特にキリストの奉仕職を共に担ってくれている司教たちと助祭たち、また貧しい人と病気の人の、さまざまな困難の中にある人々を自分のことのように愛するようにしてください。信者の声に耳を傾け、みことばの宣教と神の国の発展のため共に働くよう招き励ましてください。キリストの教会の交わりはまだ参加していない人々も、あなたに委ねられている大切な人々として心にかけてください。

愛のきずなによって一つに集められた教会の中で、自分が司教団に結ばれていることを決して忘れないでください。つまり、

切なことを学ばせてもらってきたいと思っています。

ただ、叙階の折に作成した紋章に託しましたが、「キリストのように、キリストとともに与える」者にもっと具体的に、自分を与え尽くして

よろしくお願いします

補佐司教 ペトロ中村倫明

いくつ聖体(パン)のように祭団のあったかいこと。こんななれたらいいなと思います。わたしでも受け入れてくださり、叙階式後早々、長崎教区司祭団のソフトボール大会がありました。三浦町教会から大司教館への大荷物引越しのために左腕を痛めていた(痛

めていなくても同じですが)わたしは、まともなヒットも打てず、加えてもらったチームに貢献できなかっただけでなく、かえってチームの足を引っ張ってしまいました。なのに、新人王に輝かせてもらったんです。なんて司

自分の教区だけでなく、他の教区、日本、ひいては世界の教会にも目を向けるようにしてください。可能な限り援助をするためです。

最後に、補佐司教は、総代理に任命されて、教区を治める司教を助け、司教の不在であるいは何らかの障害があるときは司教の代行を務めます。そのため、神様から与えられた信仰とやさしさと明るさを大いに活かして、司教の苦勞を分担し、司教とよく意思疎通を心がけ、歩調を合わせるようにしてください。

その後、連願がさげられ、司教団からの挨拶があった。中村新司教は高見大司教から塗油を受け、福音書、指輪、司教帽(ミトラ)、牧杖(バクルス)を授与され、抱擁をもつて司教団に迎え入れられた。

聖体拝領後、新司教は二人の司教に導かれ、聖堂内中央通路を歩いて参列者全員に祝福を与えた(上の写真)。最後に、日本カ



トリック司教協議会代表として前田万葉枢機卿、駐日ローマ教皇庁大使ジョセフ・チェノット大司教、司教団を代表して山脇守師が祝辞を述べた(6面に掲載)。新司教は信徒代表からの花束を手に感謝の思いを伝え、ミサを終えた。聖堂は中も外も人であふれ、約2時間半にわたるミサの間、立ったまま参列する人々の姿も多くみられたが、皆が共に喜び、感謝の祈りをささげた。

17時からは、ザ・ホテル長崎BWプレミアコレクションで祝賀会が開かれ、司教・司祭、各小教区の代表者、関係者がお祝いに駆け付けた。出身の太田尾教会の信徒たちがステージに上がって歌って踊り、司教有志たちがバンド演奏を披露し、シスターたちの歌の披露、長崎出身の司教たちによる「長崎の鐘」の合唱など、多くの方々が司教の叙階を祝った。

小神学校で共に働いた大分教区の浜口末男司教が当時の思い出を語れば、大神学校で共に働いた広島教区の白濱満司教は、一緒に行った深夜のラーメン屋で中村司教に命を救われたことを語った。終始、中村司教は酒を注いであいさつし、出し物のたびにステージに上がり、食事をする暇もなかった。皆がお祝いをしてくれている(皆がおめでとうと言ってくれる)ことを心底喜んでいうようだった。

宴の締めには、司教有志による応援団が熱いエールを披露し、長崎教区のこれからの発展を祈念し、全員で万歳三唱をして散会した。

司教紋章の説明

DARE UT CHRISTUS, CUM CHRISTO



紋章には、「キリスト (ギリシャ語 Χριστός) の頭二文字、御父 (ラテン語 Pater) の頭文字、聖書 (Α Ω ギリシャ文字の最初と最後の文字)、聖霊 (愛のシンボル)、ご聖体、マリアさま (私の名前 M: 倫明も重ねたい)」が表されている。

三位一体である神さまはすべてを与え尽くすためとにもいってくださいます。聖書もご聖体もマリアさまもそのことを証ししてくださいます。わたしもそうでありたくて次の言葉にしました。
「DARE UT CHRISTUS, CUM CHRISTO (ラテン語) キリストのようにキリストとともに与えること」
2019 年 9 月 16 日 補佐司教叙階
ペトロ 中村倫明



ただで受けたのだから
ただで与えなさい

マタイ 10・8



写真右上から左下へ…

浦上に来る人々、入堂
司教任命書を掲げる
大司教による授手、聖変化
ミサ後に信徒の皆さんと
司教団が集合
祝賀会の余興と笑顔の司教ら



★中村倫明司教様おめでとうございます。司教様のあたたかいお言葉と被り物に癒やされてこれまでも多くのクルシリストが誕生しました。叙階式で参列者に見せてくださったような、はちきれんばかりの笑顔でこれから私たちを導いてくださるようお願いします。
浦上教会 西尾雅俊 (クルシリヨ事務局)

★中村司教様、司教叙階おめでとうございます。司教様には、私が小神学校に入学した時と、大神学校に入学した時に、どちらも養育者として親身に関わってくださり、短期間で、大変お世話になりました。今後とも霊的な父親または兄として、私たちを導きください。
長崎教区司祭 大水満

三浦町教会 永田登志子

純心聖母会 木村美由紀

★多くの人で埋め尽くされた浦上の大聖堂。大司教様の言葉に導かれながら倫明司教様が誓いの言葉を述べられる。福音宣教、教会との一致、従順、神の慈しみの啓示、誠実…どれも倫明司教様が私たちに教えてくださったこと。神様に感謝。
三浦町教会 永田登志子

★羊の匂いをこれからも…中村司教様に育まれた羊たちが、浦上司教座聖堂を埋め尽くしました。どの羊たちも、小教区を超えたところで新司教様に祝福と期待をもっています。その思いを一つ心で祈った叙階式でした。先祖から受け継いだ熱いものを肌で感じた時でした。
純心聖母会 木村美由紀

★中村倫明司教様
おめでとうございます

★私が小神学生の頃、植松教会の主任司祭でいたが、「神様の愛」を伝え続け、その人柄で多くの人を引き付けていた姿の一端が叙階式でも垣間見えて感動しました。これからも心を込めてお祈りいたします。
植松教会 池田裕輝 (大神学生 哲学科1年)

★中村倫明司教様、叙階おめでとうございます。心より喜び申し上げます。盛大な叙階式「皆様の支えがあったればこそ、これまでこれまでに」と言う師の謙遜、柔和でいつも笑顔絶やさず、希望の光となつて私たちに、永遠の命へと導いてください。
中野教会 藤村栄三郎

★叙階式は喜びいっぱい信徒が聖堂にあふれていました。式が終わった皆さんの信徒に囲まれた司教様は、一人一人に感謝の言葉をおっしゃっていました。明るく優しい司教様、これからも変わらぬ笑顔で私たちに導いてください。お祈りしています。
浦上教会 森田優子

★私たちがお父様がふえました。中村司教様からの祝福も、私の席からは杖しか見えませんでした。中村劇場がいつ始まるかハラハラしていました。という山脇神父様のお祝いの言葉も印象的でした。
東長崎教会 瀧口由美子

祝辞

日本カトリック司教協議会代表
前田万葉 枢機卿



を記念に賜り、「皆様の中で磨かれキリストの光を示せるように」との感謝ラベルが貼ってありました。さすがと思い、一句詠ませていただきました。

倫明や磨き大島月光る

高見三明大司教様には、心からお喜び申し上げます。大阪の時には、「両手に花」と祝辞を頂きましたが、私は「頼りある片腕」と祝辞を述べたいと思います。きつと、時には右腕となり、時には左腕となつて二人分の補佐役を果していただくものと思います。

中村倫明司教様、司教叙階おめでとうございます。でも、本心は大変ご苦勞様ですと申し上げたいと思います。役が大きくなれば、苦勞も大きくなるからです。しかし、それを乗り越える力も、長崎教区民の祈りに支えられて豊かに与えられると思います。持ち前のタレント、カリスマを生かしてのパフォーマンスもますます磨かれると思います。

早速、昨夜は、出身地・大島酒造の本格焼酎「磨き大島」と「二寸先は光」と潜伏キリシタンの強い信仰を証言し、使命を果たすわたしたちを励ますためです。教皇様の訪問によつて日本の教会と社会に愛と平和、喜びと希望の実りが豊かにもたらされるように、それまでの間、わたしたち自身、靈的に準備してまいりましょう。

教皇大使

ジョセフ・チエノツトゥ大司教

今日、教皇様から、長崎大司教区のために新しい補佐司教、ベトロ中村倫明司教様という贈り物をいただき、ここにいるわたしたちは皆、ヨセフ高見三明大司教様、教区司祭と宣教会司祭、修道者、神学生、信徒と喜びを共にしています。心からおめでとうございます。

来る10月の宣教特別月間にあつて、すべての人々がキリストと福音に近づくことができるように、日本の教会全体が、熱意を新たに、無我夢中で、一心不乱に福音を宣教するよう招かれていきます。ご存知のように、教皇様は11月に日本を訪問することを楽しみにしておられます。それは、殉教者



第2バチカン公会議の公文書『現代世界憲章』の冒頭に「真に人間的なことがらで、キリストの弟子たちの心に響かないものは何もない」と述べられています。フランシスコ教皇様は、戦争、暴力、貧困、無知、連帯の欠如、不正、不公平、いのちとわたしたちの共通の家である地球を尊重しないこと、といった人類に影響を及ぼす諸問題に本心に心をかけておられます。わたしたちは皆、教皇様と共に、平和を打ち立て、真の人間の発展を確かなものとするために闘うよう招かれています。

わたしは、わたしたちが、殉教者と同じように、イエスの愛と憐れみとゆるしのよい便りをすべての人、特に社会の辺境にいる兄弟姉

す。ここで、祝句を贈ります。

三と倫ともに明るく月見かな

日本カトリック教会にとりまして、大変喜ばしいことです。

昨夜の祝会で、司教協議会会長の補佐司教は、日本司教協議会の補佐司教でもあるとの意見がありました。私はそこまでは言いませんが、重要ポストを空けて待つていきますので、どうぞよろしく願ひいたします。

長くなりましたが、日本司教協議会を代表して祝辞といたします。ありがとうございます。

(全文)

中村倫明司教への言葉
感謝と喜びのうちに

9月16日 司教叙階式

妹の最も小さな人たちに宣べ伝える情熱で満たされますようにと祈ります。

親愛なる中村補佐司教様、わたしは、神様があなたの役務を祝福し、あなたがそれをいつても、教皇様をはじめ兄弟である司教、聖職者、修道者、信徒との交わりの中で果たすことができまうようにと祈ります。この確かな祈りに信頼をおいてください。わたしたちも、わたしたちが皆、日本の善意あるすべての人々に、イエスの愛と正義と希望のかがり火となるようにと祈ります。

(全文)

司祭団代表 山脇守師



中村倫明補佐司教様、司教叙階おめでとうございます。教区を代表してお祝いを述べさせていただきます。

先日、発表された教皇様訪日決定の陰に多少隠れはしたものの、教区の皆が中村司教様の叙階式をどれほど心待ちにしていたでしょうか。わたしなどは一日千秋の思いで待つていました。そのためでしょうか、中村司教様の司教任命発表から今日までの長いこと、途中で任命が覆ることはないか心配し、また今日も式の中で、中村劇場が始まるのではないかと気が気ではありませんでした。しかし、今こうして司教様になられた姿を見て、安心と喜びでいっぱいです。

ところで、5年ほど前、信徒発見150周年を迎えるにあたり、教区シノドスを開催しました。潜伏キリシタンが大きな試練を受けつつ、命がけで信仰を次の世代に伝えてきたにもかかわらず、いつころからでしょうか、次第に信仰が薄れたかのように宣教や教会活動に熱意が感じられなくなり、信徒も減少の一途をたどってきました。それに伴い幼児洗礼を授ける親が少なくなり、自由結婚も増えてきました。そうした危機的状況の中で、このままではいけないという大司教様の思いから教区シノドスを開催し、教区の現状を変え、変えるために9つの提言が提出され、大司教様は必死の思いで改革実現のために今日まで奔走してこられました。

今、補佐司教様が誕生したことで、心強い助っ人が出現し、少しほっとされていることと思います。しかし、まだ教区シノドス提言の実施は始まったばかりです。問題が山積しています。それは日本の教会全体にも言えることではないかと思ひます。どうか中村司教様、長崎教区のため、そして日本の教会のためにもご尽力ください。わたしたちも中村司教様の上に神の豊かな祝福がありますように祈ります。

(抜粋)

お祝いの言葉を
寄せていただきました

同級生神父様、同郷のシスター、三浦町の子どもたち

「ありがとうございます」

同級生司祭から突然電話があった。司教任命のことだとすぐにわかった。「おおっ、おめでとう」とつい口から出た。我ながら何か違う言い方があるだろうと思った。ふさわしい表現を探していた。

くのをどう思うか」と先輩司祭に尋ねたことがある。その司祭は一言「信仰が必要」と答えてくれた。彼も後に司教になった。

新司教はあらゆる手段を使って神の福音を宣べてくる。仮装に翻弄されてはならないが、それもまた楽しみだ。「自分を通して神が働く」と自覚したり、またその見続けられるのは決して容易なことではない。

だから、中村倫明新司教様には「ありがとうございます」と伝えた。

福岡カトリック神学院
牧山強美

「両親と同じ優しさを感じ

倫明司教様のお姿やお話を見聞きする時、懐かしき思い出すのはご両親のことです。私が小学5、6年の頃、代用教員をなさっていたお母様に学芸会の出し物を教えていただきました。あまり丈夫でなかったお父様もいつも一緒に、二人で優しく教えてくださる姿を忘れることができません。この親ありてこの子あり。司教様が関わった多くの方々の言葉を聞くと、ご両親と同じ優しさを感じ同郷人として、とても誇りに思ひます。

ミサが楽しくなった

中村倫明司教様、おめでとうございます。浦上教会が超満員になっていてビックリしました。ぼくたちは前の方でよく見えたのでうれしかったです。司教様はともえらくなつたんだなと思ひました。

三浦町教会のミサでは、ビデオを使つてとても分かりやすく説明してくれて、ミサが楽しくなりました。叙階式



太田尾教会での初ミサのとき
ご両親と一緒に。(1988年)

ぼくは中村倫明司教様にいろいろなことを教えてもらいました。司教様はいろいろなことを知っておられて、ぼくが聞きたいことを聞いてみたら、なんでもこたえてくれました。なぜ神父様になつたかと質問したらやさしくこたえてくれました。ぼくも中村司教様のようになり、かっこいい神父様になつて、次に司教様になつ

て、あの十字架のつえをいつか持つてみたいでう。そして、司教様のようになり、いろいろなことをのりこえ、いろいろなことをみんなにつたえていきたいです。

中村倫明司教様おめでとうございます。そして、今までありがとうございます。

田中たける(小4)



信仰を今語り継ごう

浦頭小教区設立50周年記念



いう大きな節目を今年9月4日に迎えた。

この50周年を迎えるにあたり、昨年の年頭から「今語り継ごう

尊い信仰子へ孫へ」のテーマのもと信徒一同が心を一つにして準備を重ね、9月14日と15日に記念行事を行った。14日には、前夜祭として、小学生

による「今日にいたる

浦頭小教区のあゆみ」の

旧堂崎小教区の主教会が、五島キリシタンの歴史を語る上で重要な役割を果たしてきた堂崎天主堂から浦頭教会へと移り、それに伴いバトンを引き継ぐ形で設立された浦頭小教区は、その一歩を踏み出してから50年と

病院開設70周年

記念ミサと移管式

聖フランシスコ病院修道女会
管区長 シスター古川正子

9月27日(金)、長崎市内に在る宗教法人聖フランシスコ病院会聖フランシスコ病院の聖堂において「病院開設70周年と長崎教区への移管記念感謝のミサ」が、ヨセフ高



ミサ (上) と移管式の様子

当病院はドイツで生まれた聖フランシスコ病院修道女会のアメリカ管区から派遣された宣教女たちによって開設され、地域の中での医療活動に受け入れていただき、70年の聖なる軌跡を歩ませていただきました。

聖フランシスコ病院会に属する当病院は従来の名称、事業内容をそのまま引き継ぐ形で、このたび、長崎大司教区の被包括団体として移管されました。移管式は記念ミサ

宗教法人聖フランシスコ病院会
〔敬称略〕

代表役員 中村 倫明 (長崎教区補佐司教)

責任役員 山下 俊一 (長崎大学学長特別補佐)
山脇 守 (長崎北地区長・滑石教会主任)
山中 淳子 (お告げのマリア修道会・聖マリア病院長)

末吉 征志 (長崎教区経済問題評議員)



曾根小教区も 設立50周年

9月23日(月) 曾根小教区設立50周年記念ミサが曾根教会で行われた。

出身司祭、歴代主任司祭、上五島地区の司祭、信徒を招いての開催予定で

教会の歩み分かち合う

時津教会献堂40周年

時津教会(第9代主任司祭・岡 秋美師)は10月6日(日)、献堂40周年を迎えた。1979年10月7日、滑石教会の巡回教会として誕生した時津教会は、2年後に初代主任司祭として松下光男師を迎え、小教区となった。40周年記念ミサは、第5代主任司祭であり9月



信仰生活の指針として 聖トマス西と十五殉教者の記念ミサ

9月22日(日)、台風17号が長崎へと接近し大荒れの天気の中、聖トマス西と十五殉教者の記念ミサが中町教会で行われた。

津教会は持つていけるものをほとんど捧げました」など、ユーモアを交え時津教会の頑張りを振り返り、共に歩んできた教会の歩みを分かち合った。

その後の祝賀会では歴代の神父様方との懐かし写真が映し出され、笑いと優しさに満ちた時間を過ごした。



神の都合を優先する人に

福者カミロ・コンスタンツォ殉教祭

9月15日(日)、30回目を迎える「福者カミロ・コンスタンツォ殉教祭」が平戸市田平町の焼罪史跡公園で開催された。今年には平戸地区長の山村憲一師がミサの主司式を務め、平戸地区の司祭7人と修道者、信徒合わせて約100人が心を合わせて祈った。佐世保地区、



た。「殉教したカミロ神父様も、神様の都合を優先し、受け入れて日本にどまり、最後は火あぶり

ザビエルの祝日(12月3日)に近い主日開催の平戸ザビエル祭が、今年は教皇訪日日程を考慮した二部構成の別日程となり、その第二部が9月22日(日)に平戸文化センターで開催された。

2015年の初演から繰り返し演じられてきた信徒発見劇「キリシタン復活物語」そしてサンタ・マリアがいた」が上演され、監督・脚本の古巣 警師(長崎教区司祭)が率いる劇団さばと座(長崎教区信徒・司祭・民間劇団有志)の熱演に、集まった約500人の観衆は時折涙しながら先

第二部・信徒発見劇に約500人集まる

平戸ザビエル祭



観劇者から「素晴らしい信徒発見劇、感無量でした。女

性の強さ、信仰を守り抜いた信徒のさまざまな苦悩と団結力、素晴らしかった」といった声が上がった。

当日は暴風雨警報発令中で、平戸大橋通行止めを憂慮しながらも無事に開催できたことは確かに神さまのお恵みだった。やっぱり、神さまは最後はいちばんよかごととしてくださる。うったちの考えの及ばんことば、ちゃんんと計画なさっておらすと。劇中のゆりの台詞を体験し、記憶に残るザビエル祭となった。(平戸地区)

浦上キリシタン資料 改訂増補版



四番崩れの際に没収された教理書・教会暦など(付、浦上小教区沿革小史)カトリック浦上教会歴史委員会編

宣教師たちの司牧熱と心労、祖先たちの厚い信仰と伝道熱が伝わってくる文書です。ぜひみなさんに読んでいただきたいと思います。

本書「まえがき」より 長崎大司教区 大司教 ヨセフ高見三

◇本書の特長と内容
150 余年前の潜伏キリシタンの信仰生活を証言する資料。
カトリック浦上教会で保存する 23 点の資料を影印と翻字を並掲。

浦上教会歴史委員会へ 2020 年 1 月 10 日 (金) までにお申し込みの方は、特別頒布価格 7,000 円 (税込) にてお求めいただけます。

注文先 浦上教会歴史委員会 FAX 095-844-6508

※書店での購入は定価 (9,000 円 + 税) となります。

これから成長したい

長崎南地区堅信式



大司教は受堅者たちに対し、「決められた祈りを唱えるだけでなく、自らの言葉で神様との対話を重ね、キリスト者としての自覚を持って歩み続けてほしい」と勧めた。

式の後には受堅者を代表して、深堀教会の松尾歩美さん(中学2年)が「これからキリスト者として成長していきたい」と決意を述べた。式後は、隣接する深堀純心幼稚園へと移動して祝賀会が催された。

10月6日(日)、長崎南地区合同堅信式が深堀教会で行われ、47人が堅信の恵みをいただいた。できるだけ多くの人に参加してもらおうと、聖堂内には座席が臨時に増設されたが、お祝いのために駆け付けた約300人で埋め尽くされた。

堅信式の中で高見三明

約束を生きる

2年前に、本原教会に隣接するフランススコ会修道院に3人の50歳前後の神父が人事異動で派遣されました。その3人が順番に今年このコーナーの記事を担当することになり、私は二番手ということでした。

初めての九州。初めての長崎での生活にも慣れてきました。先日の中村倫明司教様の叙階式では、長崎教区の神の民の一員であることの一体感を味わいました。新司教様が祝福のために堂内を回られている時の皆さんの歓喜に満ちた反応に触れ、私自身も喜びに満たされました。いただいた御絵には、「ただで受けたのだからただで与えない」。標語には「キリストのようにキリストとともに与えること」と記されてありました。神から大きな恵みと使命を受けた司教様の、神と私たちへの「約束」なのでしょう。

時には、「神に反するすべてのものを退けます」と約束します。結婚式でも修道誓願式でも、並みの人間には、まず守ることができないであろうことを誓います。あまりに大変な約束ですから、私個人の約束として真面目に考えないようにするか、儀式上の様式(流れ)として言っ

みことばにふれて 164

ペトロ 松本

(フランススコ会 長崎修道院)



たただ、とか逃げてしまいたい。そう。誠実な人ならば、1週間、1カ月ががんばってみたいけれど、やっぱりきつかった、守りきれなかったとがっかりされるかもしれない。私のような意志の弱い者には、約束を守り続けていくことは無理に近いのです。立てた約束を諦めてしまったり、棚に置いておいたりしてしまったり。ある時、ふと思っ

たただ、とか逃げてしまいたい。そう。誠実な人ならば、1週間、1カ月ががんばってみたいけれど、やっぱりきつかった、守りきれなかったとがっかりされるかもしれない。私のような意志の弱い者には、約束を守り続けていくことは無理に近いのです。立てた約束を諦めてしまったり、棚に置いておいたりしてしまったり。ある時、ふと思っ

たただ、とか逃げてしまいたい。そう。誠実な人ならば、1週間、1カ月ががんばってみたいけれど、やっぱりきつかった、守りきれなかったとがっかりされるかもしれない。私のような意志の弱い者には、約束を守り続けていくことは無理に近いのです。立てた約束を諦めてしまったり、棚に置いておいたりしてしまったり。ある時、ふと思っ

たただ、とか逃げてしまいたい。そう。誠実な人ならば、1週間、1カ月ががんばってみたいけれど、やっぱりきつかった、守りきれなかったとがっかりされるかもしれない。私のような意志の弱い者には、約束を守り続けていくことは無理に近いのです。立てた約束を諦めてしまったり、棚に置いておいたりしてしまったり。ある時、ふと思っ

現役カテキスタのための研修会

カトリックセンターで開催

研修会後のアンケートをもとに、「教会学校の取り組み」としてカテキスタが直面している課題を、10グループで分かち合った。多くのカテキスタが、教会学校の現状や新たな課題に前向きに進むための力をもらったなどの感想を述べていた。

また、カテキスタとして知っておきたい典礼暦の学びは、講師を務めた嘉松宏樹師(長崎教区司祭 福岡カトリック神学院)の熱意に支えられ、多くの参加者の目からうろこが落ちるようなものとなった。

さらに、「シノドス提言における基本方針と優先課題」についての2回目となる解説が中濱敬司師(教区信仰養成部部長)により行われ、カテキスタ自身の信仰養成や大人のためのカテキスタ養成が求められているとの気が

皆でスポーツ楽しむ

司祭団ソフトボール大会



9月24日(火)松山町の長崎市営ソフトボール場で行われ、参加した約50人が4チームで対戦し、汗を流し楽しんだ。優勝は長崎A。写真は始球式の様子で、バッターは高見大司教様、キャッチャーは中村司教様。ボールの行方は果たして…。

感謝

— 寄付 —

長崎カトリック神学院
●川下喜代美様(浦上)

カテキスタ養成
研修チーム

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

ふいつつ

福岡教区主催「ローマ教皇来日記念企画展」開催中

12月3日(火)まで、大名町教会(福岡教区)。

司教座聖堂献堂記念ミサ 11月1日(金)18時30分、浦上教会。

第2回長崎青年の日 11月3日(日)14時〜4日(月)11時、カトリックセンター。

黒瀬の辻殉教祭 11月10日(日)14時、平戸市生月町クルスの丘公園。雨天時、山田教会。

教区主催追悼ミサ 11月17日(日)14時、中町教会。

一日の祈りの集い 11月19日(火)西町、12月7日(土)本河内、2020年1月25日(土)三浦町、2月18日(火)滑石。9時15分〜16時。参加費500円。聖書、筆記用具、昼食を持参。みつあみの会主催。各教会に配布の案内を確認の上、2週間前までに申込み(定員15人)。

NCCK(日本カテキスタ会)主催公開講座「NCCK設立50周年特別記念講座」12月7日(土)8日(日)、カトリックセンター。教区信仰養成部協賛。受講料・両日2000円、一日のみ1500円。開合先・教区信仰養成部 Tel 095・841・7731 申込はファックスかメール 092・673・6501

ncckate@gmail.com

「宿屋の主人はその夜、まったく眠りにつけませんでした。しかし、そのかわりにかけがえのないものたちに出会います。羊飼いや天使、光り輝く星々……そして、なにより特別なあの出来事に!!」幼児から対象。ドン・ボスコ社、税別800円。



★せいなるよるはおおさわぎ
作||ニコラス・アラソ
訳||関谷義樹

教区家庭委員会からお知らせ
2020年版カレンダー
「ともにあゆむ」発行

教区家庭委員会がつくるカレンダー「ともにあゆむ」は、今回で3年目の発行となります。信者は一年を通してイエス・キリストの生涯と全神祕を記念し、その恵みにあずかります。ぜひ、このカレンダーをご利用いただき、典礼暦年を意識した生活を送っていただけたらと願っています。

カレンダーには「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連資産」12の構成資産の説明と、日曜日ごとの永久聖体礼拝の担当教会などを記載しています。

※1冊800円。なくなり次第、販売を終了します。

問合先 長崎教区家庭委員会(担当・辻)

☎095-842-4450

子どもと女性の
人権相談室

最初のご相談はお電話でお願いいたします。詳細は各小教区に配布されているポスターをご参照ください。

場所 カトリックセンター別館
連絡先 095・865・7829

時間 月〜金 10時〜16時
*休日・祝日・教区本部事務局休業日などを除く。不在時は、留守番電話対応。

相談室長 マリア 福田真理

祝

訪日 日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙

教皇様の

訪日記事は週刊カトリック新聞で!

❖11月24日(日)
長崎県営野球場にて訪日教皇ミサ

共に生きる カトリック新聞

ご購読のお申し込みは

カトリック新聞

検索



03-5632-4432 http://www.cwjpn.com/cwjpn/ 週刊(日曜日発行)1年9,936円 半年4,968円(国内1部、税・送料込)